

放課後ITクラブ for Everyone

☰ 概要

10年後から先「日本はITに弱い」と言われないようにするために、子供のITリテラシーを上げる。親に対する啓蒙ではなく、子供が自分の興味で参加できるような場所と機会を提供する。

メモ

- ・「1人も取り残さない」考えは捨てる。努力した人、学んだ人が優位になるほうが重要。
- ・インドの子供たちにPCと回線を与えて自力で学ばせる考えに近い。
- ・家庭にPCやインターネット回線が無い子供の、潜在能力を引き出す手伝い。
- ・IT分野でのキッズニアのような遊び場と考えてもよいかも。

📝 解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

課題

- ・ITに弱い日本人が多すぎる。
- ・「IT苦手です」と恥ずかしげもなく言える環境。
- ・親のITリテラシーによって子供のITに関する能力が大きく左右される。
- ・小学校の教師に広範囲かつ専門的なIT教育を任せるのは無理がある。
- ・現役ITエンジニアがIT教育に貢献できる機会が少ない。
- ・ITエンジニアは自分の仕事に関連するごく狭い領域しか見えていないことが多い。("外のモノサシ"がない)

目標

- ・学童、放課後クラブのような形式でITを自由に学べる機会を子供に与える。
- ・10年後に日本の若い世代のITリテラシーを世界レベルに近づける。
- ・インターネットの基礎からきっちり学ぶ。
- ・中学校までに、Di-Liteレベルをクリアする。[<https://www.dilite.jp/>]
- ・ITエンジニアが講師になることで自信も学びとコミュニケーション能力の向上。

📝 解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

- ・放課後に集まれる場所を作る。自治体の会議室でもいいが、楽しく明るい雰囲気を作るためにはコワーキングスペースやサイボウズの本社オフィスのような環境を貸してもらおう。
- ・学校に掲示することで、子供に直接届くようにする。親の薦めで参加するのではなく。
- ・会社員が、副業の一環、社会貢献の一環として、夕方からの1,2時間程度を活動に使える制度を作る。
- ・会社員が、自分の得意分野をもとに、自由に講義を行う。子供は自分の興味あるものを自由に聞ける。
- ・実際にプログラミングやネットワーク設定なども行う。
- ・予算を与え、機材の選定、組み立て、設定等から学ぶ。
- ・グループでのワークショップなども行う。
- ・活動資金は、企業からの協賛金、国や自治体からの補助金、参加者の参加費用から捻出。
- ・参加者も無料にはしない。(ひと月100円でもよい)継続性と本気度を上げるためにある程度のハードルを設ける。

📝 類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）

- ・CoderDojo
- ・学童クローバークラブ
- ・放課後プログラミング教室
- ・Qiita



有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）

- 親への訴求ではなく、子供の意思で参加できるようにする。
- 学校の指導要領に従うのではなく、実務に近いスキルを身につけられる。
- 子供は、親や教師以外の大人から仕事の話を直接聞くことができる。
- 講師側も特定の団体が行うものではなく、幅広く参画できる。
- 社会人が自分のスキルを活かして参加することで、リスキリングや視野を広げることにつながる。
- 副次効果として、子供から新しい考え方を得られる。



実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

子供への訴求

- 学校へのチラシ掲示
- 口コミ
- 子供向け商品とのコラボレーション

社会人への訴求

- コミュニティ作りと同じく、発言力あるメンバーを集めてまず初めてみる。
- 名古屋であれば「なごのキャンパス」のような場所を拠点としてセミナーを開催する。
- connpass等でのセミナー告知。
- リスキリング、副業推進などの文脈で企業のHR部門に参加を働きかける。

場所の確保

- IT系コミュニティを辿れば場所はいくつかある。
- 名古屋市内でも4,5ヶ所の候補はすぐにあがる。



課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

- 強力な立ち上げ推進メンバーを集めること。
- 小学校へ働きかけて門戸を開いてもらうこと。

解決策としては、地道ではあるが、

- IT系コミュニティの人脈を使って賛同者を増やす。
- 同様に人脈を辿って、小学校や教育機関へアプローチする。



期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

まずやって初めてみるまでに、半年程度。

運営チーム構築、宣伝材料作成、場所の確保、講師の確保、参加する子供集め。
そこからは定期的に開催に順に頻度をあげ、場所を広げる。

運営チームの構築について、

そもそもコミュニティに参加している有能なメンバーはそれぞれの仕事で重要なポストについているので、ボランティアもしくは副業で始めるのが妥当。

初期コストについて、

ボランティアベースで立ち上げる場合、初期コストは500万円もあれば十分ではないかと考える。

オフィスレスでのスムーズなやりとりのために、各種SaaSの活用のためのサブスクリプション費用と、会場の使用料など。

費用のかかる機材としては、教育時に貸し出すIT機器。これらは当初は最低限でよい。

その後は寄附なども募って機材コストを抑える。

未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

10年後、20年後に、「ITをきちんと理解して使いこなせる人」の数が劇的に増え、当たり前になっていく。きちんと理解できる人は、他者に教えることもできるので、平均レベルをあげやすくなる。

また、ITエンジニアは、「人に教える機会が増えること」によりヒアリング、説明、資料作成、問題解決能力が格段に向上し、ソフトウェア開発のスキルが大きく進歩する。

自分の仕事だけでやく視野も広げられる。

このようなITによって世代を超えた繋がりのできる広場のような場所が、リアル／バーチャルともに当たり前が存在するようになれば未来は明るくなるのではないか。